

平成 30 年度 第 2 回花巻市包括支援センター運営協議会 会議録

1. 開催日時 平成 31 年 3 月 26 日（火）午後 2 時 30 分～3 時 45 分
2. 開催場所 花巻保健センター 2 階 集団指導室
3. 出席者
 - (1) 委員 10名
小早川隆文委員、荒谷政博委員、高橋岳志委員、上川亜矢委員、橋本純子委員、菊地清委員、大原初美委員、朝倉千里委員、小田島克久委員、影山一男委員
 - (2) 欠席した委員 5名
佐藤 寧委員、鎌田智恵子委員、狩野隆史委員、藤本莞爾委員、吉田 正委員
 - (3) 事務局 8名
健康福祉部長 熊谷嘉哉、長寿福祉課長 佐藤拓史
長寿福祉課課長補佐 包括支援担当 久保田和子、同課包括支援係長 高橋朱里
同課課長補佐 介護給付・介護認定担当 佐藤ひとみ、同課介護認定係長 有戸裕美子
同課高齢福祉係長 丹野久弥、同課包括支援上席主査 鎌田晶子
 - (4) 傍聴者 1名
 - (5) 報道関係 1名
4. 協議事項
 - (1) 平成 30 年度地域包括支援センターの事業実施状況について
 - (2) 花巻市における地域ケア会議について
 - (3) 平成 31 年度地域包括支援センターの運営方針
5. 会議内容
 - (1) 開 会 進行：久保田長寿福祉課長補佐
ただいまから平成30年度 第2回花巻市包括支援センター運営協議会を開催する。開会に当たり、健康福祉部長の熊谷より挨拶を申し上げる。
 - (2) 挨 拶 熊谷健康福祉部長
介護保険運営協議会から引き続きの委員には大変お疲れ様である。年度末の多忙な中、参集いただき感謝申し上げます。地域包括支援センターについては、地域全体での高齢者を支える仕組みの中で大切な役割を担っているとともに、認知症や地域生活支援事業等においても非常に大切な役割を担っている。
一方では、その業務が年々増えているという実情もあり、当市の介護、高齢施策を推進する上で非常に大切な機関であるセンターの、今後のより良い運営に向けて、市と委託先の社会福祉協議会が一体で進めていくためにも、皆さん方の忌憚のない御意見をいただきたい。

(3) 会長挨拶 影山会長

委員の皆様には、年度末の多忙な中参集いただき感謝申し上げます。包括支援センター運営方針に『高齢者が慣れ親しんだ地域で心身ともに健康で生きがいをもって生活できるまちを目指す』とあるとおり、全国の高齢者がぜひ住んでみたい町として、全国に誇れる花巻市となるよう、皆さん方の忌憚のない御意見をいただきたい。本日は3つの議題があるので、御協議をよろしく願います。

〈出席状況の報告〉(久保田課長補佐)

本日の会議の出席状況を報告する。委員15名中出席10名、欠席5名である。花巻市地域包括支援センター運営協議会、規則第5条第2項の規定により会議が成立することを報告させていただく。なお本会議は花巻市審議会の会議の公開に関する指針により公開する会議となる。会議の傍聴を希望する方がある場合は、これを認めること、また、会議資料及び会議録を市のホームページで公開することを申し添える。

〈議長選出〉(久保田課長補佐)

会議の議長は要項第4条第2項の規定により、会長となっている影山会長どうぞよろしくお願い申し上げます。

(4) 協議(影山会長)

① 平成30年度地域包括支援センターの事業実施状況について

資料に沿い、佐藤長寿福祉課長より説明。

〈質疑応答〉

(高橋委員)

資料1の1の2、活動状況(1)総合相談支援業務に関し数点質問させていただく。1点目として、実態把握の延べ件数とあるが、実態把握の取り組みを御説明いただきたい。2点目に、東和が訪問相談、実態把握ともに突出して多いが、他地域に活かせるかその要因を伺いたい。3点目に、誰からの相談が多いのか、誰がキーパーソンかに通じると思うので、傾向を説明願いたい。

(伊藤所長)

1点目について、相談があった際は、基本、訪問して本人や家族の状況を把握するため、各年度の初回訪問を把握件数として計上している。複数回訪問しても状態変化がない場合は件数に計上しない。2つ目は、東和は訪問で詳しく状況把握をする件数が多いと考えていただきたい。3点目、相談者は、本人、家族、民生委員が多い。相談経路は、初回相談の最多は家族親戚で997件、次いで関係機関の300件、その次が本人からの211件の順番であった。

(高橋委員)

了解した。(4)包括的継続的ケアマネジメント業務の会議の開催等、いろんな機関と会議を行うことで連携が図られると思うが、それが総合相談に繋がるという見方をすると、連携は非常に大事と感じる。事務事業評価は非常に難しいが、要は何をやり、どんな結果を得、それが最終的に市民の幸せの向上につながったかどうかだと思う。インプ

ット、アウトプット、アウトカムという評価もあるが、混在しており非常に難しい。数字上でできているようでも、実際には施設が不足ということもある。その地域での見守りなど、地域生活が十分に見てとれるのかと思ってお話を伺った。それについても地域包括支援センターの役割は非常に大きいと思う、今後も期待している。

(大原委員)

包括支援センターの事業評価を通じた機能強化の中で、業務負担の課題について市町村とセンター間での認識のずれが明らかになったと記載されているが、意識の差や内容での違いか。チャートでは、花巻市は全国よりもかなり上回っている状況だが、業務量はどうかのかが活動状況の実績だけではわかりにくい。突出している部分もあるが、花巻市としての策、考えを教えてください。

(久保田補佐)

本調査は、地域包括ケアシステムにおいて地域包括支援センターが担う役割がどんどん大きくなる中で、その負担を明確化するため実施されたもので、花巻より全国平均の負担感が大きいという結果だった。市内5圏域の地域包括支援センターの実態を明らかにし、必要なところを強化するため結果をレーダーチャートで示した。確かにこれだけで業務負担や業務量は図ることは難しいが、各センターのできてない点や、苦手な点の差がでたのだと思う。それぞれの業務にかかる負担も含め、ある程度均等化されるよう地域包括支援センターと話し合いながら今後の取り組みの仕方を考えていく。

(大原委員)

了解した。略語について。1の4の資料の4番のP D C Aサイクルによる機能評価とは、どういう方法なのか。

(久保田補佐)

P D C Aサイクルは、地域包括支援センターの事業評価に特化したものではなく、物事を進めるときの考え方として広く用いられてるものである。計画を立て、実施し、評価し、改善して、次につなげていくというサイクルを繰り返しながら、よりよい取り組みを行うという解釈で良いと思う。

(大原委員)

要望だが、歯医者は虫歯について全国でのレベルを評価する。センターの業務評価のチャートについても、良いとばかり言わずに、できれば10万人前後の同レベル市町村と比べて評価してほしい。例えば、人口減、人口維持、人口増によっても評価が変わってくると思う。

(久保田補佐)

業務評価は、評価の仕方やレーダーチャート等全てが国から付与され、それに基づき全国と花巻市を比較して、今回資料提出させていただいたが、確かに同規模比較をしないと、花巻市の立ち位置が冷静に判断できないと思う。同様形式での提示は難しいが、何らかの形で同規模市町村と冷静に比較する資料がないか、検討してみたい。

(影山会長)

恐らく、最新年度は難しいかもしれないが、例えば、次年度に平成29年の花巻と全国の同規模の1年前の平成28年資料で提出することは可能と思う。次回、そういう形での比較も御配慮を願いたい。

(小早川委員)

レーダーチャートの花巻市全体値は 83.3%だが、介護予防ケアマネジメント介護予防支援の構築は、花巻5地区全てで 60%と、ほかの指標に比べ低い。介護予防ケアマネジメント介護予防支援が不十分なところと見て良いのか。

(久保田補佐)

前段の会議でも話題になったが、平成 29 年度の総合事業開始に当たり、要支援 1、2 を対象にした新サービスを創出したが、その利用が進んでおらず、現行サービス利用が相当数な状況。この指標は、ケアマネジメントに新サービス体系が組込まれていない点と関連した数値と考えている。

(小早川委員)

今年度は第 7 期の 1 年目であるので、次年度以降改善が見込まれると考える。

② 花巻市における地域ケア会議について

資料に沿い、佐藤長寿福祉課長より説明。

〈質疑応答〉

(小早川委員)

以前から、地域ケア会議は支援の1番のメインと思っている。困難事例は検討した対処方法により問題が解決されたと信じるしかないが、資料2-3の自立支援及び生活の質向上の検討の場(ケアワークショップ)の問題点について、解決支援は実際に行っているのか。歯、口腔の色付けが多いが、歯科医は、虫歯や入れ歯、抜歯等で来る方について、以前は脳卒中で悩んでいたが、最近は骨粗しょう症の注射や服薬等で悩む症例が増えてきた。確認した事例や解決された問題点を教えていただきたい。

(高橋係長)

資料は、今年度開始のケアワークショップの検討事例の課題が一目でわかるようにまとめた整理表である。歯や口腔、栄養、生活課題、地域課題が多数なものに対して、今年度の多職種が集う会で『低栄養、口腔ケア、歯科の課題をもつ事例に、それぞれの職種がどんな支援ができるか』をテーマに意見を出していただいた中から、来年度、現行の家族介護教室の中に、低栄養改善の簡単な調理法を栄養士会の協力で教え、そこに介護事業所のヘルパーに参加いただき、実際のサービス提供時に、そのメニューを提供して貰う。家族と共同して一緒に取り組むといった対応を考えている。関係機関それぞれが対応できる課題については、支援の中で改善していただく。ケアマネージャーや介護関係者それぞれに、自立支援という視点を持っていただくことが、このケア会議の大きな目的の一つであるので、この会議の運営は、まずはプランナーの気づきを築き、関係機関と連携しながら個別ケースを支援するという状況である。

(小早川委員)

要は、検討した後は、話だけ聞いて終わりということか。

(高橋係長)

課題解決の一例として、薬の副作用で何か症状がある場合のかかりつけ医への伝え方について、これから薬剤師会と連携して検討する段階だが、現時点ではそういった課題も含めて、今後どうしていくか検討している段階である。

(小早川委員)

今後どうするかを急ぐべきではないのか。調べて、はい終わって、資料出しましたでは何のための会議かと言いたくなる。来年度夏の資料は、もう少しすばらしい資料にしていただきたいと思う。

(高橋係長)

ケアプランニングの課題解決のため、専門職の方から助言をいただき、それをケアプランに反映させ、改善するよう支援をしている。できるところはすぐ取り組んでいたが、よう会議を進めている。改善策を盛り込んだケアプランについては、地域包括支援センターにモニタリングいただき、ケアマネ支援の位置付けで市と共に改善状況を確認し、さらなる課題にも対応していく。

(小早川委員)

地域ケア会議が適正に運用されているかは、きちんと見た・聞いた話ではなく、結果だと思うのでそれを御理解いただければと思う。パーセントでは非常に会議が多いが、内容が市民、対象者に還元されていなければ、実際、会議をやっただけ、話を聞いただけで意味がなく福祉協議会の方々が大変である。データをまとめる市役所も大変と思うが、委託事業も多いようなので、もう少し、データを見せていただきたいと思う。

例えば、困難事例の処遇検討について、先ほどPDCAについてチェックまで言っていたが、その後、どういう改善策をしたか見えない点が問題である。事例1の大迫の88歳の人に関して、体調管理、栄養管理、金銭管理について協議してその後どう対応したのかが見えるようになれば、もっとわかりやすくなると思う。自分の母親が85歳で独居であり、独居に具体的にどう対処したのかが気になる。ぜひ、その後の対応まで協議事項に記入いただくようお願いする。

(大原委員)

個別ケア会議の事例の話をも具体的に話すのはどうかという点はあるが、自分は民生委員をしており、民生委員の立場からお願いした経緯がある。ケア会議に包括の責任者を始め、地域の包括支援センターの主任ケアマネ、保健師と社会福祉士に加え、多職種が参加し検討いただき、そこから問題解決に向かって急速に進み始めたことがあった。進み始めた1番の要因は、やっぱり地域住民。独居の方だったが、取り巻く親戚や、地域包括、社会福祉協議会等が役割を分担する中で進んだと思っている。ただ、途中であれっ進まなくなったと感じた時期があった。もちろん親戚や関係者に報告し確認しながら進んではいたが、ケア会議の中で確認した課題がどうなっているか確認をしながら、一つ一つ進んでいただけるとありがたいと感じた。その事例は全ての課題は解決していないが、それぞれの役割分担により入所に至り、本人自身の生活の安定という最大の課題は解決が得られ、皆さんの御協力に本当に感謝している。課題解決にあたり、包括は役割を持つそれぞれの人達と、今、どの課題がどこまで解決しているか確認しながら進めていただきたいと考え一事例について話してみた。

(高橋委員)

質問ではないが、せっかくの機会なので社会福祉士として地域ケア会議に繋がる情報を提供する。改正社会福祉法の第4条第2項に、住民の地域生活課題という中で住まいについて記載されている。資料2の3では、住環境の調整に係る件数は多くないが、地域包

括支援センターの地域ケア会議の対象になると思う。岩手県社会福祉士会では居住支援に取り組んでおり、地域の中にある高齢者の住み替え問題や不動産業者との交渉など、住環境の環境調整に難しさを持つ事例について社会福祉士を派遣して調整を図るということをやっている。盛岡市の地域包括支援センター等からは、結構な件数の相談があるが、花巻市内においては、地域包括支援センターからの相談はほぼなく、精神科病院のワーカーからの相談が多い状況である。せつくなので、住環境の調整に難しさのあるケースについては社会福祉士会を御活用いただきたい。

(影山会長)

貴重な情報に感謝する。その点も今後考慮いただければと思う。

(荒谷委員)

質問ではなく要望というか、今後の考えを教えてもらいたい。最初のところにも関連するが、資料1に記載のある専従ワーカー(ケアプランナー)と仕事ではよくやりするが、研修や会議の機会ではなかなかお目にかかることがない。3職種の方とは話をしたり心を通わせる機会が多いが、業務で存在が見える専従ワーカーは、スキルアップ等では見えない存在であると現場で日々感じている。今後、例えばスキルアップの機会として一緒に研修に参加いただくとか、グループワークで発言いただく機会を設けていただければ、より連携が図りやすいと思うので、そういうことも、次年度検討いただきたい。

(影山会長)

御意見に感謝する。ぜひ検討いただきたいと思う。

(久保田補佐)

確かにそこはとても大事であり、市としても、地域包括支援センターとしても共通の認識で同じことを考えていた。プランナーは要支援1、2の方と総合事業対象者の計画立案の役割を担っているが、ケアマネージャーのように研修などの体制が整っていないのが花巻市の現状である。今いただいた御意見について、来年に向け検討し実行に移せるよう、話し合いを進めていきたいと思う。

③ 平成31年度花巻市地域包括支援センターの運営方針案について

資料に沿い、佐藤長寿福祉課長より説明。

〈質疑応答〉

(小田島委員)

質問ではない。社会福祉協議会では、包括支援センターを受託し運営させていただいている。協議1、2、3と進んできた中で、花巻市民がどこに住んでいても、安心して生活できるようにするのが目標だと思う。花巻全域5圏域を受託しているが、市民がどこにいても同じサービス、課題解決が図れるよう、レベルを上げねばならず、5圏域でレベルを上げていかなければいけないとつくづく感じた。先ほどのケア会議の話でもないが、ケア会議は、回数が実績なのではなく当然解決や解決に至るまでのプロセスも実績である。全部は無理だとしても関わった人が納得いく形で結果を高めていく、求めていくことが大切だと思う。包括支援センターの運営に当たり、花巻市からも人員の増員や予算的な御配慮もたくさんいただいているので、新年度事業もそういう視点を持ち、運営、受託させていただきたいと思う。以上。

(菊池委員)

地域ネットワーク会議について、先ほどの2の2の1番最後のところに一行だけ情報共有により地域の強みや弱みが把握できたとあるが、実際、計画ではこういう文言をよく使うが、こういう把握をしてどうしたというのが、今回の資料にもなかった。強みはまあいいが、把握した弱みに対してどうしたのかがあれば、この計画がもっと生きてくると思うので、地域が抱える具体的な課題を教えてください。中でも弱みがあるとしたら、どのように解決したかを教えてください。

(影山会長)

地域ネットワーク会議の文言だと思うので、よろしく検討願いたい。ここでの問題と違うかもしれないが、元気な高齢者が増えると、最近のアポ電とか消費者被害に関わってくると思う。都会では、アポ電とか詐欺的な事件は高齢者が対象になることが増えているようだが、花巻市内ではアポ電とかはもう、発生しているのか。その辺の情報があれば教えてください。

(佐藤課長)

花巻市は市民生活総合相談センターで消費者相談を行っているが、花巻市でも何件か出ているようだ。いろいろな情報を警察等々とリンクし注意喚起を行い、被害がでないよう抑えており、そういう場合もすぐにホームページ等でお知らせする体制である。包括支援センターまでいくような案件はまだなく、水際で止まっているという状況ではあるが、何例か事例はある。

(橋本委員)

近所に80になっても90になっても元気なお年寄りがいるが、今は元気なんだけどいざ何かあった時にはどうしたらいいのかという質問をよく受けるが、そのような時は包括支援センターの門をたたいてくださいとはっきりお伝えしたいと思う。その時はよろしく願います。

(影山会長)

本日は各委員の方々から貴重な情報や御意見をいただいたので、ぜひ次年度の活動事業計画等々に反映していただければありがたい。それでは、第3の協議事項を終えたいと思う。また、私の議長も退任させていただく。

(久保田補佐)

これをもって平成30年度第2回花巻市地域包括支援センター運営協議会を閉会とさせていただきます。本日は年度末の忙しい中、ご参加いただき長時間にわたり熱心に御協議いただき感謝申し上げます。